

八潮の獅子舞



市内に伝わる2つの獅子舞を紹介します。

資料館 ☎ 997・9966

大瀬の獅子舞

7月1日(火)・2日(水)に、大瀬氷川神社で県指定無形民俗文化財「大瀬の獅子舞」が奉納されました。例年よく雨が降ることから、「どろんこ獅子」とも呼ばれますが、今年ほとんど雨に降られずに執り行われました。また、27日(日)には



二丁目の獅子舞

7月20日(日)、二丁目氷川神社で、市指定無形民俗文化財「二丁目の獅子舞」が奉納されました。獅子のかがむ所作が多いためか、「田の草取り獅子」とも呼ばれます。多くの見学者に見守られる中、ムラに邪気が入らないよう、切れの良い舞が舞われました。この獅子舞は、明暦元年(1655年)頃に始まったと言われています。舞は5通りあり、御幣や笹(竹)、綱、橋、太刀をそれぞれ使用します。囃子は笛のほか、さらさらと音



がするよう竹を加工した「簾」と呼ばれる楽器が使われます。舞の間には、獅子の背中をうちわであおぎながら「ハイチ」と呼ばれる掛け歌を謡ったり、獅子宿で「場謡」と呼ばれる謡を催すなど、古式にのっとった祭礼が継承されています。

舞は、3匹の親子獅子が富士山に登る途中の出来事を物語風に描いており、12通りの舞があります。氷川神社への奉納は、毎年7月1日・2日に行われてきましたが、来年から7月第1土曜日およびその翌日に変更されます。

うちわに夏の風物詩



7月30日、やしお生涯学習館で、「水引で作るミニうちわにひまわり」が開催され、5人が参加しました。進物用の包み紙などを結ぶのに用いられる水引の色や本数を変えてひまわりを作り、ミニうちわに貼り付けて、夏らしい作品に仕上げました。参加者からは「祝儀袋についているイメージしかなかった水引で、ひまわりを作ることができるなんて新鮮だった」「今度はひまわりだけでなく、他の作品も作ってみたい」との感想が聞かれ、出来上がった作品に満足していました。

おいしいパンになあれ



7月30日、八幡公民館で、「子どもパンづくり教室」が開催され、小学校3年生から6年生までの16人が参加しました。メニューは、コーンパン、あましょく、パイナップルケーキでした。パンを作る際には、材料をよく混ぜ合わせ生地を塊を作り、テーブルの上で軟らかくなるまで伸ばしたり、叩いたりして、きれいに丸めた生地を発酵させました。子どもたちは、パンの生地が発酵する時に、大きく膨らむことに驚いたりして、楽しみながらパンづくりをしていました。

科学の面白さを体験



7月25日、八幡公民館で、八幡図書館夏休み科学あそび「とんだり・おちたり・まわったり!」が行われ、19人が参加しました。始めに、丸や三角などの色々な形をした音の出る「びゅんびゅんごま」の回転している時の音の違いに耳を傾けました。また、植物の種が空を飛んだり動物にくっついて移動する様子が、本や模型を使って紹介されました。その後、子どもたちは、実際にびゅんびゅんごまを回したり種の模型を飛ばしたりして、科学の面白さを体験しました。

迫力のある屏風が出来ました



7月25日・26日、八潮メセナで「段ボールで屏風を作ろう!」が開催され、4歳から大人までの28人が参加しました。参加者は、鉛筆で下書きをしたあと、12色の絵の具と太さの異なる筆を使い、自分の好きな動物を描いていきます。講師から「紙全体を使って大きく描いて」などのアドバイスを受け、迫力のある色とりどりの屏風を作成しました。完成した屏風は、八潮メセナの展示室に飾られ、参加者や他の利用者の目を楽しませていました。

いきいきやしお写真館

この広報紙は、再生紙と大豆インクを使用しています。

◆広報やしおは、毎月1回、10日(新聞休刊日を除く)に新聞折り込みで配布しています。届いていない世帯の方は、最寄りの公共施設、金融機関、一部のコンビニエンスストア、八潮駅などでお受け取りになれます。なお、次回の新聞折り込みは、9月10日(水)です。